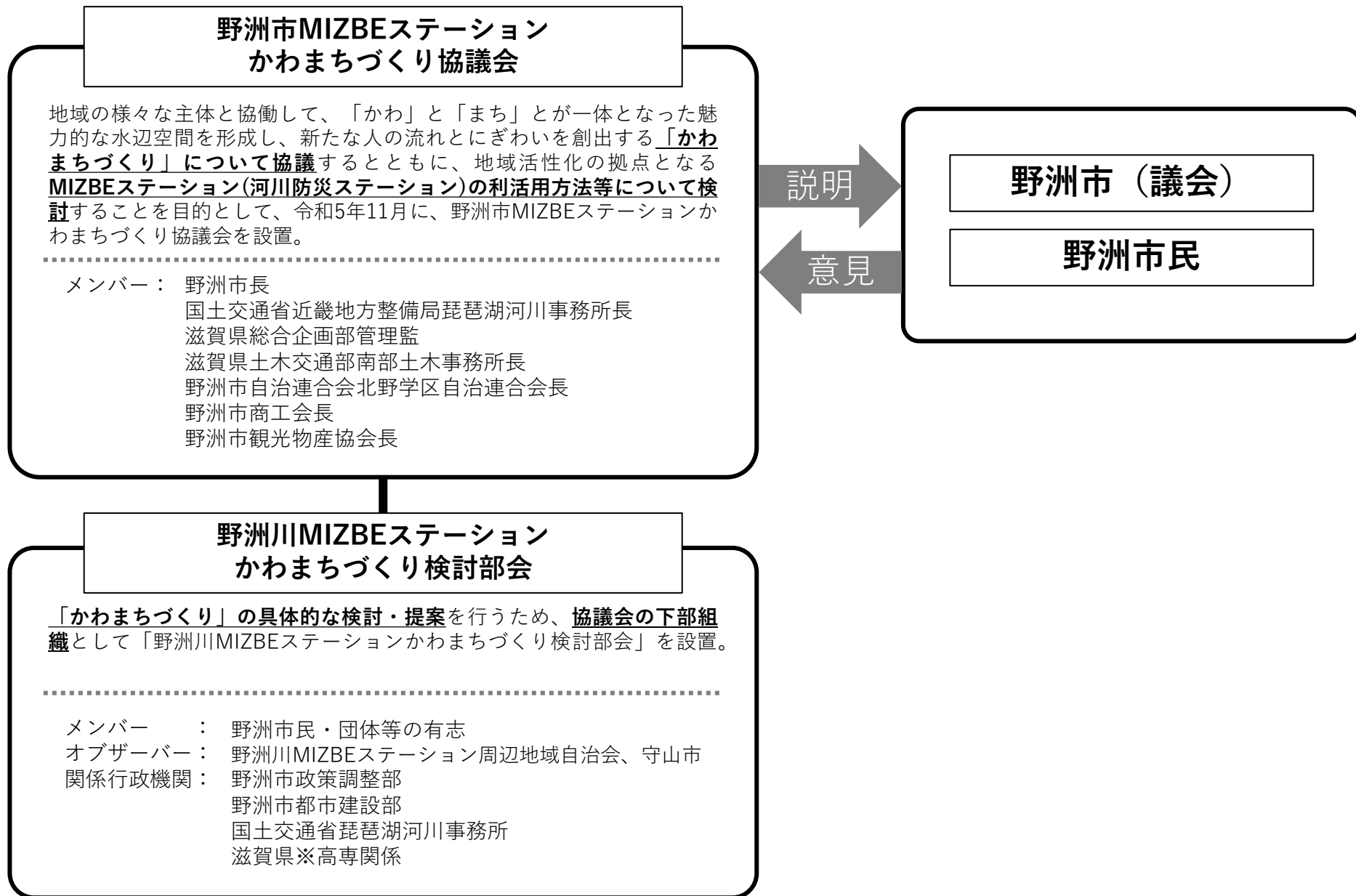


2. 野洲川MIZBEステーションかわまちづくり検討部会の位置づけ



3. 野洲川MIZBEステーションかわまちづくり検討部会の活動について

1) 野洲川MIZBEステーションかわまちづくり検討部会の役割と目的

【検討部会の役割】

「かわまちづくり」について、検討部会メンバーを中心にオブザーバーや関係機関とともに議論しながら、野洲川MIZBEステーションがどんな場・施設であることが野洲市・野洲市民にとって良いか具体的な検討を行うこと。

【活動内容】

- ①検討部会での議論を通して、市民の意見を反映した野洲川MIZBEステーションとしていく事をめざし、議論を反映した「野洲川MIZBEステーション運営方針」として取りまとめる。
- ②野洲川MIZBEステーションの将来の方向性の試行・検証のための実験イベントへの参画・協働（MIZBEステーションを活用し、市民のやりたいこと・できることを集めていく運営の第一歩）

2) 議論の形式

会議形式を基本に、議論の内容によっては、グループに分かれてワークショップ形式を行う場合もあります。

3) 検討部会のスケジュール

R7年に4回程度の会議開催（スケジュール詳細は次ページ）

ー実験イベントに関しては参画度合いに応じて別途会議・打合せを予定。

運営方針とは、設計基準や運営要求水準書等では表せない、市民視点での運営上大切なポイント等を取りまとめたもの。民間事業者公募の参考資料等にすることで、市民の想いを汲んだ提案が期待できる。



2. ソフト・運営上大切にしたい6つのポイント

複合施設の将来像を実現するために、ソフトや運営上で大切なことは、次の6つのポイントです。

複合施設の将来像

多世代がつながり 地域の魅力が創出される 町民ひとりひとりの居場所

三宅町複合施設の将来像の実現にむけて、運営上大切にしたい6つのポイント

①いつも開いている

- 平日・休日ともに開いている
- 前から夜まで開いている (朝は8:00頃～モーニングができて、夜は21:00頃まで仕事もできる)

②定期的・継続的に活動が行われている

- 毎週末など定期的に活動を展開する (マルシェ、フリーマーケット、野菜市など)
- 小さくても長く続けられる活動を継続的に展開する

③いろんな世代の楽しみがある

- いろんな世代がそれぞれの感性で楽しめるものがある (お年寄りに人気の講座、子どもに人気の体験など)
- 時間帯・曜日によって使い方が変わる (朝や平日はお年寄りが健康づくりに使う、夜は仕事帰りの人が休憩する、休日は子どもや親が集まるなど)

④まちの情報が集まっている

- WEBや紙媒体などにまちの情報を一元化する (今日のイベント、お知らせ、予約情報、各々の公民館で行われているプログラム情報など)
- 情報が届くように工夫する (デザインのいいチラシを広報誌にのせる、WEB情報をプリントして壁新聞にするなど)
- 予約はネットと窓口で対応し、幅広い世代にとって使いやすくなる

⑤まちの人・団体がネットワークしている

- 地域の大人が得意分野を活かした教室を開く (工作教室や料理教室)
- ボランティアの活動の場を広げる
- 字ごとの活動を町全体に広げる
- 既存団体の情報共有や交流の場にする

⑥子どもがもっと三宅町を好きになる

- オープンするまでも、オープンした後も、子どもたちが関わる仕掛けをつくる

1. 運営の目的

私たちは、次世代も三宅町が元気でいきいきとしたまちであるために、次の3つを目的として複合施設を運営することが大切だと考えています。

目的1
町民が集い
参加の輪を広げる

目的2
町の内外から
事業者が集い
賑わいが生まれる

目的3
施設が広く知られ
町の外からも
人が集まる

次世代も元気で
いきいきとした三宅町

運営のチェックポイント・町民が集い、参加の輪が広がっているかどうか
町の内外から事業者が集い、賑わいが生まれているかどうか
施設が広く知られ、町の外からも人が集まっているかどうか

3. ハード・空間を設計する上で大切にしたい6つのポイント

複合施設の将来像を実現するために、ハードや設計上で大切なことは、次の6つのポイントです。

複合施設の将来像

多世代がつながり 地域の魅力が創出される 町民ひとりひとりの居場所

三宅町複合施設の将来像の実現にむけて、設計上大切にしたい6つのポイント

①使い方によって自由にスペースを変形できる

- 広々とした空間を自由に仕切って使うことができる
- 環境の変化に対応できる (暑さ、寒さ、雨天など)

②開放的で行き来しやすい

- 施設の外から、気軽に入りやすい
- 施設の中に、仕切りがない

③いろんな活動の拡がりを支える設備がある

- もっと町民が交流できる
- もっと本に親しめる
- もっと仕事がしやすい
- もっと産業・農業について知れる
- もっと町民の活動がさかんになる
- もっと屋外で活動しやすくなる
- もっと子どもが元気に遊べる
- もっと健康になれる

④まちの人と出会う場がある

- 三宅町の様々な人と知り合える (生産者、観光ガイド、など)
- コーディネーターがいる (三宅町内、町外との交流)
- 子育て世代が集まりやすい場である

⑤居心地がいい

- ええ感じのソファがある
- ちょっとお茶ができる
- 気軽に休憩できる

⑥地域の魅力を創出するデザイン

- デザインに革を取り入れる
- 古墳を見る展望スペースをつくる
- 広場を中心とした一体的な景観をつくる
- 空から見た形も意識する